Ⅴ 研 究 部

1 研究主題

共感的・協働的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現する児童の育成
～根拠を明確にして説明する力を高め、友達との関わりを通して考えを深める授業づくり～

2 主題設定の理由

本校では、「共感的・協働的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現する児童の育成」のテーマのもと、個の表現力・説明力を高めることを目標に研究を進めてきた。昨年度から全学年で重点教科を国語科とし、理由を付けて話すこと、叙述を基に話すことができる児童の育成に取り組んできた。考えの根拠となる叙述を選ぶ活動を繰り返し、読み取り方を学んだことで、今まで以上に根拠を基に自分の考えを表現しようとする意識が育ってきたと感じている。

しかし、日々の学習の様子から、児童の語彙力不足、読みの不確実さが課題として挙げられる。自分の考えをうまく説明できない、友達の考えにつなげて発言できる児童が固定化されているなど、自分の言葉で思いや考えを伝え合い、比較・検討して話し合うということに関しては、十分な力が付いているとは言えない。みんなで創り上げる授業にするために、特に話合い活動の充実を図っていく必要があると考えられる。更に、学習アンケートの結果から、書かれてあることが分からない児童や自信がないため自分の考えや意見を言えない児童、もっと分かりやすく説明したいと思っている児童が以前より多くなっていることが分かった。このようなことから、課題を解決するために必要な情報を読み取る、自分の考えを分かってもらえるように根拠を明らかにして表現する、話合いを深めていくための手立てを充実させていく必要がある。

そこで、今年度も重点教科を国語科とし、これまでの研究を継続しながら、ねらいにせまるための効果的な学び合いを充実させるとともに、語彙の獲得と拡充を図り、自分の思いや考えを豊かに表現する児童の育成に焦点を当てて取り組むこととした。「読むこと」を中心に研究を行うことで、学習を通して育まれた読む力は、他教科においても文章や資料の理解力や活用力の向上にも生きてくると考えられる。読む力が付けば、相手意識をもって説明したり、学んだことを活用して自分の考えをもつことができるのではないかと思われる。そうすることで、「共感的・協働的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現する児童の育成」が図られるのではないかと考えた。

このような研究を通して、児童が語彙を習得し、文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現することができれば、他者と考えを伝え合う中で、より深い理解や思考等を得ることにつながるのではないかと考え、本研究の主題を設定した。

3 研究主題について

・共感的・協働的に学び

子どもたち一人一人が他者の考えを認め、共感しながら個々の能力を結集し、協働して課題解決に挑む学びのことである。友達の話を共感的に聴き、協働的に課題を解決することによって、対話的な学びを支える関係性が構築されていくと考える。

・自分の思いや考え

習得した知識・技能や経験、事象をもとに、課題に対して表現したいことである。また、分かったことや気付いたことに対してもった自分の思いや考えのことである。つまり国語科では、教材文を読んで想像し感想をもったり、経験した出来事と関連させて気付いたりすることである。さらには、友達の思いや考えを聞いて、深まり高まった自分なりの思いや考えである。

・豊かに表現する

相手や目的に応じて、自分の思いや考えを伝えるためには、どのような言葉を選択し、どのように表現することが適切かを考えることである。さらには、考えたことを自分の言葉で書いたり話したりして、分かりやすく伝えることである。学習や日常の生活を通して身に付けた言葉や表現方法に基づいて、児童が言葉の選び方や使い方等を工夫し、相手により分かりやすく、思いや考えを伝えていこうとする姿を示したものである。

4　研究の構想図

教育基本法
学習指導要領
秋田県学校教育の指針
北の学校教育の重点
市学校教育指導の重点

学校教育目標

ふるさとに学び、未来を拓く児童の育成
～夢をもち、やさしく、まじめに、せいいっぱいがんばる子～

保護者の願い

・素直で明るく活発な子
・元気にあいさつできる子
・思いやりのある優しい子
・自分で決めたことに積極的に取り組む子
・前向きに考え、何事にも粘り強くがんばる子

目指す児童像

・夢や目標に向かって粘り強く努力する児童
・自他を大切にし、思いやりの心をもった児童
・自分の役割を果たし、基礎･基本となる学力(人間的基礎力･大館市民基礎力)を身に付けた児童

研　究　主　題

共感的･協働的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現する児童の育成
～根拠を明確にして説明する力を高め、友達との関わりを通して考えを深める授業づくり～

目指す児童の姿

（１）語彙を増やし、根拠をもとに自分の思いや考えを表現する児童
（２）文章の内容を把握し、共感的・協働的に学ぶ児童
（３）自分の学びを深め（深化）、自己を成長させ（進化）、本物の学力を身に付ける（真価）児童

研究の仮説

（１）言語環境を整備することにより、児童の語彙の拡充が見込めるだろう。また、言葉による見方・考え方を働かせる言語活動を取り入れていくことで、自分の思いや考えを根拠をもとに表現する児童の育成につながるだろう。

（２）叙述やねらいに沿った読みになるよう「読みの視点」を活用しながら学び合う場のファシリテートをしていくことで、文章の内容を把握し、共感的・協働的に学ぶ児童の育成につながるだろう。

（３）自分の学びを価値付けるための振り返りや、意図的・計画的な繰り返し指導を行う場を設定することで、学びを深め（深化）、自己を成長させ（進化）、本物の学力を身に付ける（真価）児童の育成につながるだろう。

研究の重点と具体的施策

★授業づくり

個 → 集団 → 個

問い／見通し／自力解決／考えを伝える／比較・検討／まとめ／たしかめ問題／振り返り

つながる場／たしかめる場／シンカする場

(1) 語彙を豊かにし、表現力を高めるための言語活動の工夫
・言葉による見方・考え方を働かせる学習内容の明確化
・見本づくりを通して、児童の実態に合った言語活動の設定
☆音読指導の重視
・学びの型の活用
（話し方・聴き方、声のものさし、ハンドサインなど）
・基本話型を活用し、抵抗なく発言できる環境づくり

(2) 共感的・協働的に学び、考えを深める学習活動の工夫
・ねらいを明確にした授業作り（１時間のゴールをイメージ）
・「読みの視点」の活用
☆考えを伝え、深め合うための教師の発問やファシリテート
・教師と児童、児童同士、前時と本時、他の教科と、など様々な考えをつなげ、交流させる場の設定
・学習の流れが見える板書構成と、板書とリンクしたノート指導
・学年の発達段階に応じた学習リーダーの育成
・学習形態の工夫（ペア、グループ、フリー、全体）
・探究型の授業作りにつながるＩＣＴの活用
・個に応じた支援・指導（ＴＴの活用、ＵＤの視点で）

(3) 自分の学びを深め（深化）、自己を成長させ（進化）、本物の学力を身に付ける（真価）児童の育成のために
・学びを自覚する「振り返り」の確実な実施とその効果的な活用

★授業以外の場で

○意図的、計画的な繰り返し指導
・家庭学習充実のための支援
（家庭学習の手引き、自学紹介コーナー、ぐんぐん学習の推進、自学花丸デー）
・朝学習の活用
（「ことばのきまり」や「スイッチ・オン」等のドリル、新聞ワークシート、音声タイム等）
○学習の定着状況の把握
・各種テスト、ノートチェック、学習アンケートの実施

★学びを支える心づくり
【学級経営が基盤】
・「特別の教科　道徳」の充実
・特別活動の充実
・ふるさとキャリア教育の充実

★学びを支える学習習慣
【学習指導部と連携】
・「学習の約束」（学習のしつけ）の徹底
・田代中学校区小中連携
【家庭とも連携】

★学びを支える集団づくり
【生活保健体育部と連携】
・全校集会、すこやか集会を通して
・縦割り班活動を通して

おおだて型学力を鍛える授業

＊アクション＊
前に踏み出す力

＊シンキング＊
課題をもち、考え抜く力

＊チームワーク＊
学びを支える集団作り